

子供の頃は、練習しろと言われたからとにかくピアノに向かわなければいけない、ということころまでしか理解していなかったのですね。

楽器に触れている時間が長いことが正義、みたいな感覚でした。

練習しろと言われても、うまくなくていく方法も、実際上達しているのか変化もよくわからないまま、ただただ、理由もなく練習時間を多く取って、つまらない時間はかりが過ぎていくという状況になっていることもあったと思います。

◆自分の弱点を的確に把握する

やはり大切なのは、練習の前にまず自分がどこが弱いのかに気づくことから始めることですね。

すると自ずとそれに対する練習方法が見えてきます。そしてそれは、意外と練習方法さえ的確であれば、思っていたより短時間でゴールに近づくのです。

例えば、キーが高いサビが苦手、という方の歌を聴くと、実際苦手な箇所は、7度（7つ音程が離れている）の跳躍をするポイントと、リズムの乗り方、の2点だったということがあります。

7度の跳躍ポイントだけの抜き出し練習をし、リズムに慣れるための練習方法を繰り返すことで、わずか30分でサビが見違えるようになりました。

レッスンなどに通っている方は、自身が思う弱点に対する練習方法の引き出しを増やすために、講師に練習バリエーションのアドバイスを求めるのがひとつの手かもしれません。

自分の気づかない弱点に気づかせるのも、先生です。

子供には、わかりやすく「どこが苦手だからこんな練習をすると改善するね」と明確に伝え、た上で、レッスン時間の中でそのショートバージョンを行ない成功体験を重ねることで、自宅でも練習に向かう意欲が湧くかもしれません。

自分で的確に弱点を把握し、その解決方法も自身で生み出せるようになると、プロへの道

も近くなるのではないかと思ったりします。

プロになると、多忙で練習時間が取れないなんてこともざらにあります。どんなに時間がなくても次から次へと本番はやってきます。

短時間でクオリティを高め、さらなる成長のための方法を自身で探求し続けなければいけません。

自身の弱点に常に敏感であり、解決策の引き出しを増やすことを徹底して意識することは、とても大切だと思っています。